



最上町ゼロカーボンシティ宣言



～2050年二酸化炭素排出実質ゼロを目指す～

近年、地球温暖化が原因とされる気候変動により、記録的な猛暑や集中豪雨、台風の強大化等による自然災害が多発し、これまでにない気象異変が地球規模で発生しています。最上町においても、集中豪雨等の気象災害により倒木、停電、家屋の損害など肌身をもってその脅威を感じる状況になっています。

2015年に合意されたパリ協定では「世界全体の平均気温上昇を産業革命前に比べて2℃より十分に低く抑えるとともに、1.5℃に抑える努力を追及する」ことが定められています。同じく同年に採択された2030年にむけた環境・経済・社会についてのゴールであるSDGs「持続可能な開発目標」は今、世界を大きく変革する道しるべとなっています。

最上町としても、2013年度に策定した「スマートコミュニティ構想」において気象災害から町民の安心・安全を守り、災害に強く自立分散型のエネルギーシステムが構築されたまちの実現を掲げ、2015年にはバイオマスエネルギーの利用多様性と産業の創出によるまちづくりの構想を「バイオマス産業都市」に認定されるなど、地域資源を再生可能エネルギーとして使う取り組みをすすめてきました。

先人から受け継いできた最上の自然環境を子どもや若者たちへの次世代へ引き継ぎ、暮らしと社会を持続可能なものとしていくため、最上町は脱炭素社会の実現に向けて、町民や事業者等との協働により、2050年までに二酸化炭素の排出実質ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ」の実現に向けた取り組みを実施することをここに宣言します。

2021年12月9日

最上町長

高橋重美

